

2021 年度特定共同研究申請書

1.応募領域（○を付けてください） 古代史料領域 中世史料領域 ○近世史料領域 海外史料領域 複合史料領域
2.申請課題名 史料編纂所所蔵維新関係貴重史料の研究資源化
3.新規・継続の別 継続
4.申請者 小野 将（近世史料部門・准教授）
5.所内共同研究者 保谷徹（近世史料部門・教授） 杉本史子（同・教授） 箱石大（同・准教授） 水上たかね（同・助教） 立石 了（同・助教）
6.希望する研究期間 2020 年度～ 2021 年度 （ 2 年間 ）
7.課題の概要（400 字程度）（この項は広報等に利用・掲載することがあります） 本所が特殊蒐書として所蔵する維新関係貴重書史料群は、質量ともに国内有数のコレクションでありながら、一部を除き史料学的調査・研究は着手されたばかりである（デジタルアーカイブ化も未形成）。本研究では対象史料群のうち、維新史料引継本（約 2 万冊、戦前期の維新史料編纂会が収集した史料群）・外務省引継書類（約 3000 冊、政府から移管された江戸幕府の外国方関係史料）・史談会本（約 2000 冊、旧華族諸家が複製収集した幕末維新史料群）、また、国宝島津家文書や島津家本のうち、幕末維新関係史料を対象とする。当該時期のそれぞれの地域を専門とする共同研究者を募集し、厳密な史料学的検討を加えつつ、各史料の記述内容を確認して解説目録の作成に着手する。明治維新への社会的関心をも見据えて、本研究の成果を公開し、来たるべきデジタルアーカイブ化に向けての基礎的作業を実施する。
8.研究の目的（400 字程度） 本課題では 2018 年度より、戦前以来長期にわたって本所に蓄積された特殊蒐書史料群について、本格的な史料学的調査・分析に着手した。維新史料編纂会・史談会による幕末維新时期史料についての編纂事業、江戸幕府外国方の書類を引き継ぎ外務省内でも進められてきた外交史料編纂や、島津家のごとく大名家・諸藩に残された一次史料の伝存状況等にはとくに留意して、幕末維新时期の本格的な史料論の構築をめざし、引きつづき共同研究を進めてゆく。従来、大規模蒐書であるそれぞれの史料群については、その性格や内容が十分に分析されてきたとは言いがたかった。2020 年度の時点ではなお調査の途上にあるものの、今後本所データベース上にも反映できるような目録記載情報をさらに充実させ、史料情報の公開をいっそう促進させるとともに、将来的には幕末維新时期史料論を構築すべく、その基礎となる成果の共有を、主たる目的とする。
9.共同利用・共同研究として進める意義と期待される研究成果（400 字程度） 現段階でなお研究の進展していない、本所所蔵の大規模史料群について、研究資源化という

面での着実な成果を期待することができる。

目録情報・データベース記述をも充実させることによって、研究上中核的・基本的と評価できる史料群についての理解がいつそう深められ、本所所蔵史料より得られる豊富な研究情報について、所外への公開が一段と進むことが期待される。

また、幕末維新时期を専門とする研究者の協力を得て本計画を実施することにより、基礎的な史料論のさらなる高度化のみならず、全国的政治史研究の方面での成果も見込まれ、いつそうの相乗効果が得られることも期待される。

10. 研究の実施計画

・ 本所所蔵史料の再検討・補充調査

本所所蔵の維新时期関係特殊蒐書は、上述のごとく大規模なコレクションであり、網羅的な検証はなおも困難であるために、本共同研究の目的に沿って、目録情報をいつそう充実させるため、基礎的な作業を継続する。過去の蒐書整理のプロセスにも留意したうえで、現状では未だ書誌情報に乏しい史料群について、目録記述の追補を着実にすすめることをめざす。具体的には、目録上ではタイトル・点数程度の記載に留まっている書目が大多数である現状に鑑み、作成主体やその帰属（地域や組織）、作成の年代や所載内容の細目にまでわたるデータを増補し、本所データベース上に反映させる計画である。

本課題は 2018 年度に開始され、以後は本所所蔵史料に対する共同研究員それぞれの問題関心（幕末維新时期政治史を中心としつつ、多岐にわたる）に対応しながら、これら膨大な史料群につき、ボーリング・試掘的な調査を実施してきた。しかし 2019 年度は新型コロナウイルス流行に伴う様々な事態により、計画通りにまとめる作業は困難であった。現時点での中間的成果を確認するところからはじめ、今後の目録データ処理の進展や、全体の進捗状況を勘案しながら、最終的なまとめ方を検討してゆくことにしたい。

・ 研究成果共有手法の検討

これまでのような、大人数参加の形態での研究集会開催は困難な状況が続いている。本年度はインターネット等の手段により、研究会を開催すること（内容・時期等については、進捗状況によって判断する）を模索する一方、着実な成果の確認と情報共有について、どのような手法でおこなうことが効果的であるかについても検討する。

11. 研究成果の公開計画

・ 目録情報については、引きつづき所蔵史料目録データベース等の内容記述の増補をめざす。

・ 共同研究の成果にもとづき、本所の紀要や画像史料解析センター通信等の媒体上での、論考の発表を計画する。

・ 本課題の最終年度である 2021 年度末に、総括的な研究会を開催する。

12. 共同研究員にもとめる役割

・ 維新史料引継本・史談会本・外務省引継書類・島津家文書や島津家本など、中核となる史料に即した調査検討、および目録データ補充の作業への参加等にもとづく、幕末維新时期の研究推進

・ 研究会（web 上での開催ふくむ）等への参加、上記の研究成果公開への協力（成果報告の執筆ほか）

（記入欄は適宜行数を増減して記入して結構ですが、2 頁に収めてください。）